

# 棚田通信

NO5 2008.3

恵那市坂折棚田保存会

## なごみの里だより

### 坂折棚田と先史文化恵那研究会

恵那市坂折棚田保存会は平成18年7月に正式発足以来、田口譲会長をはじめ、会員各位の熱意にこもった企画のもと、積極的な活動展開を推進され、心より敬服しています。さて、恵那市先史文化研究会が坂折棚田と出会い、棚田活動が先史文化研究会の大きな柱になった経過について、述べさせていただきます。

棚田との出会いは感激でした。

能登の千枚田や信濃の田毎の月の話や、それに「だんだん田んぼ」の言葉は知っていましたが、棚田が持つ重要性について無知でした。昭和61年(1986)司馬遼太郎が「街道をゆくシリーズ」の「檜原(ゆずはら)街道」(高知県)の中で「千枚田は日本人一般の先祖の仕事の眼前を見せてくれる」、「檜原の千枚田は偉いものやな」、「万里の長城も人類の遺産だけど。檜原の随所にあるという千枚田も大遺産やな」として、その景観の名文章を載せました。以来檜原の千枚田は日本中の話題となり、平成7年には檜原町で第1回全国棚田サミットが開催されました。

奇しくもその年の3月に笠置山中腹の三角錐状のピラミッド岩発見が話題となり、同年11月に恵那市先史文化研究会が発足しました。

この過程で坂折棚田へ足を運び、岩刻文様の岩石に接すると共に坂折棚田に魅力と棚田全体の景観のすばらしさやその工夫と労働に想いを馳せ、棚田に対する関心は高まるばかりでした。万里の長城に匹敵する棚田は、檜原以上に坂折棚田だと心にきめて、会の主要課題として取り組むことにし、





下記の文面を記入した絵葉書をつくり配布しました。

笠置山の西側は赤河断層にそって、中野方川がV字谷をつくっている。この川沿いの約6kmは石積み棚田地帯である。特に上流の坂折地区の約350枚の棚田は見事の一語につきる。それを先祖代々に伝えて、つくりあげ、守ってこられた坂折の人々に頭が下がる。この地域には、近世苗木藩政時代の「藩主要道黒瀬道」が通じ、苗木と黒瀬（現八百津町）を結んだ。この道によって、外の文化に接し、地域を結ぶ心と収穫の神として蔵王権現を祀り、田の神も祀った。その原点をたどると、先史時代の打製石斧が大量に出土している事実や岩刻文様や巨岩伝承にたどりつくし、土壌の流出と侵食を食い止めの災害防止の役割にも気付く。また坂折棚田の姿から森と谷川と石を生かした生産と生業のもとをそこに見る想いがする。こうした想いで、春夏秋冬の四季を通じて棚田の前に立つと、自然と人間と石の文化とその技術の継承など、新しい時代にも必要な基本課題がその美しい景観と共にせまってくる。

こうして1回目：坂折地区の方々に会として挨拶してから、棚田の話を聞く勉強会。  
2回目：棚田の水源地一帯の案内を頂いて勉強する会。3回目：棚田博士の中島嶺広先生のお話を聞く会などを平成8年11月までに開催しました。（…つづく）

恵那市先史文化研究会長（恵那市坂折棚田保存会顧問） 小坂 清治

## アストロゼネカ(株)社員との作業交流会

10月10日、全国のアストロゼネカ社員3,000人による、「高齢化する村を応援するプロジェクト」のボランティア活動の一環として、今年も坂折へ岐阜支社から30人が参加して、保存会会員と棚田保存作業を実施しました。アストロゼネカ(株)は本社大阪にあり「患者さんに貢献する」をミッションに医療用医薬品の開発、製造及び販売を行っている会社です。



棚田での作業内容は、彼岸花の移植、荒廃棚田の草刈、稲刈り作業で、保存会会員とともに汗を流しました。昼食は棚田米のおにぎりと棚田汁、漬物で各自握って食べました。



## 坂折棚田環境集中整備を行う



2月15日～17日、雪の舞う寒い日となりましたが、13時から約3時間、集中して会員のボランティアで作業を行いました。

整備作業の内容は「なごみの家」の掃除と土蔵の床の修理、棚田広場の下の竹やぶの伐採と焼却作業です。

竹やぶは長年手入れがされてなく、密林のようになっていて作業も難航しましたが、一本ずつ手作

業で切り倒しては焼却、今まで竹やぶで遮断されていた棚田が少しずつ繋がりと、棚田の景観が大変良くなりました。参加者の皆さんご苦労さまでした。今後も環境整備を続けていきますのでご協力よろしくお願ひします。

## 棚田で稲刈りしたよ！（中野方小学校5・6年のお礼の手紙より）

今日は稲刈りで、稲の刈り方をくわしく教えてくれてありがとうございました。

私は初めての稲刈りで、やり方が分かりませんでした。やった時、始めはなかなか切れませんでした。でも切れるようになったら楽しくなりました。（5年生）

私たちが学校に行っている間、草むしりや米のお世話をしてくださってありがとうございました。久しぶりに棚田のお米を見て「おいしそうにできているなー」と思いました。久しぶりに稲刈りをして暑い中42人で楽しく稲を刈ることができてうれしかったです。（6年生）



いねかりで、くつがはまってどろんこになったけど、たのしかったです！！いねをかったら、はんそでだったから、ちょっとかゆかったです。でもそんなことがあったけど、おわったときとってもうれしかったです。（5年生）

昨年とはちがい、とても暑い中での稲刈りでした。刈ってだっ穀した後も、落穂もひろいました。ぼくはお米がそれだけ大切だと分かりました。（6年生）



## ふれあい小屋(仮称)を建てます

坂折棚田広場の道を隔てたところに、坂折棚田を開拓した一人である本柘植家の屋敷があり「棚田屋敷」と呼んでいます。

この棚田屋敷西側の農機具のいれてあるビニールハウスを撤去し、桧皮葺きの小屋を建てることになりました。3月に着工し、4月からオープン予定です。小屋の材料は当副会長の鈴木直さんから間伐材を寄付していただき、夕立山森林塾の方々に伐採を依頼、当会員の柘植義政さんを中心に建築していきます。また、昔ながらのかまども作りました。ふれあい小屋(仮称)の利用については会員の皆様の意見を聞いて決めていきます。

## 新酒「くろくわ」の仕込み始まる

昨秋、坂折棚田で収穫された米(生産者: 柘植一光さん、柘植すゞ子さん、柘植三恵子さん)ミネアサヒを高度精米し、坂折川の寒の内の水を汲み、濾過し酒蔵恵那醸造さんに委託し仕込みに入りました。

蔵出しは4月中旬頃です。会員の皆さん一層のご愛呑ご利用をお願いします。



## 坂折棚田カレンダー配布協力ありがとうございました。

平成19年12月、坂折棚田フォトコンテストの入賞作品を5点選んで「棚田カレンダー」を1,000枚印刷し、内500枚を会員の皆様に、残りをフォトコンテストの協力をしていただいた団体に配布協力をお願いしました。

カレンダーは年明けに新聞掲載されたこともあり、市街の方からも購入したいという問い合わせが相次ぎ、在庫がなくなるほどでした。配布協力いただきました会員の皆様、フォトコンテストに協力いただきました(株)バロー、中日新聞社、恵那市、(社)恵那市観光協会、中日写協恵那支部、(社)恵那建設業協会、恵那市建設協同組合、(有)コスモブックセンター、(株)岐阜クボタの皆様ありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。今年はさらに充実したカレンダーを作成しますので、皆様のご協力、ご意見をお願いします。

### あとがき

来年度に向けて棚田のオーナー制度の募集を始め先月締め切った段階で23組程の応募がありました。2年目の方も入れると30区画全部埋まりそうです。今年は稲の他にも粟のオーナーなど試験的に行っていこうかと計画しています。

まだ日陰には雪が残っていますが、木々のつぼみも膨らみ始め、徐々に春の足音を感じています。棚田の春もうすぐです。 恵那市坂折棚田保存会 事務局(中野方振興事務所内) 23-2111